

講義名	商業簿記			授業形態	
担当教員	孫 美晃	開講期・曜日・時限	後期 月曜日 3 時限 / 後期 木曜日 4 時限		
		単位数	4	履修開始年次	2 年生

主題と概要

簿記は企業の利益を計算するための技術で、利益計算には二つの意味が含まれています。一つは儲けたかどうかを知るための事後的な計算（この計算結果は株主、銀行、一般投資家など会社外部の利害関係者に開示される）、もう一つは儲けるための事前的な計算（この計算結果は経営者が経営戦略を立てるために用いられる）です。この計算技術の基本的な仕組みが理解できれば、会社経営はもろろん会社の経営実態を理解することができます（たとえば、株式投資のための企業分析を行うとき）。簿記の計算技術によって作成される財務諸表には、会社の経営実態を把握するための豊富な情報が含まれています。本講義では財務諸表を読むための第一歩となる、複式簿記の基本をマスターすることを目的とします。講義内容は概ね日本商工会議所主催の簿記検定2級のレベルに相当します。

到達目標

- (1) 簿記一巡の手続きについて理解するとともに、会計帳簿と財務諸表を作成できるようになります。
- (2) 会計帳簿や財務諸表の作成を通して、ビジネスの諸活動を計量的に把握する能力を身につけることができますようになります。
- (3) 日商簿記検定3級を合格することができる能力を身につけることができますようになります。
- (4) 会計の専門科目や隣接分野（経営・ファイナンス等）の科目の学習に際して役立つであろう基礎的な知識を身につけることができますようになります。

提出課題

- ・ ほぼ毎回の講義で課題の提出を求めます。
- ・ 小テストを事前予告なく、複数回実施します。授業のはじめに行うので、遅刻しないように注意してください。
- ・ 中間試験を実施します。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

課題や小テストを回収後、解答を配布します。また、必要に応じて解説します。点数は採点后、後日公開します。

評価の基準

平常点（課題ほぼ毎回、小テスト複数回、中間試験1回）60%、定期試験40%の割合で評価を行います。

履修にあたっての注意・助言他

本講義は商業簿記2級の内容ですので、商業簿記3級の知識は必須です。「商業簿記」をすでに履修済みであるもしくはそれに相当する知識を持っている人が対象となります。商業簿記2級の合格を目指す人にお勧めの講義です。

教科書	.大原で合格の日商簿記2級 商業簿記 第3版.	資格の大原	中央経済社	1485	9784502395116
-----	-------------------------	-------	-------	------	---------------

参考図書

参考図書	.なし.				
------	------	--	--	--	--

その他	<プリント資料> 講義中、配布します。
-----	------------------------

授業計画

1. ガイダンス・イントロダクション
2. 第0章 3級の復習
3. 第1章 現金預金
4. 第1章 現金預金
5. 第2章 債権・債務
6. 第2章 債権・債務
7. 第3章 棚卸資産
8. 第3章 棚卸資産
9. 第4章 有価証券
10. 第4章 有価証券
11. 第4章 有価証券
12. 第5章 固定資産
13. 第5章 固定資産
14. 第5章 固定資産
15. 第5章 固定資産
16. 復習
17. 中間試験
18. 第7章 引当金
19. 第7章 引当金
20. 第8章 収益と費用
21. 第8章 収益と費用
22. 第9章 外貨建取引
23. 第10章 株式会社の純資産
24. 第10章 株式会社の純資産
25. 第11章 企業結合
26. 第12章 税金
27. 第14章 本支店会計
28. 第15章 連結会計
29. 第15章 連結会計
30. 復習

以上の計画は講義の進み具合によって多少変更場合があります。

注：コロナの関係で定期試験が実施できない場合は、15回目の講義で試験を実施します。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="checkbox"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="checkbox"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> エ：グループワーク
<input type="checkbox"/> オ：プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> カ：実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

簿記の知識を習得するには、授業中の学習だけでは不十分で、必ず自定での予習と復習が必要となります。その一方で簿記は正解が1つしかないため、自分の理解が正しいかどうか確認しやすく、こつこつ努力した成果が成績に如実に反映される科目でもあります。事前に配布した資料や指示に従って予習（2時間）し、講義終了後は当日内容の理解を定着させるために復習（2時間）を心掛けてください。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

目標(1)から(4)を達成することで全学共通DPの(1)(2)、(4)に貢献できる。簿記学習を通じ、日商簿記検定2級の資格取得にチャレンジする気持ちが生え、取得した資格を武器に社会に出ることができることで全学共通DP(1)に貢献する。また、企業が公表する財務データを活用して課題発見・課題解決に必要な情報収集・調査・分析が可能となることで全学共通DP(2)に貢献する。資格試験の合格という自らの目標を設定し、その目標を達成することで全学共通DP(4)に貢献する。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

双方向授業の実施：講義中、教員からの質問に対し自らの考え方を整理し、発言する機会はほぼ毎回あります。

ICTの活用：TeamsやZOOMを利用します。

実務経験の有無及び活用

実務経験あります。実務経験が本講義の内容と直接関連するわけではないですが、受講生に刺激になると思われるエピソードがある場合は適宜紹介していきたいと思ひます。

備考

備考	
----	--